

「膀胱炎が短期間で改善したケース」

小関 千那代

Aさん 女性 27歳

【主訴】

膀胱炎になった

【具体的な内容】

排尿の際に、少し染みる感覚があったが、そのまま過ごしていた。その2日後、排泄痛や残尿感があり、膀胱炎を疑ったが、特に病院受診などはせずいた。疑った次の日、尿意の頻度があがり、不快感やヒリヒリとした痛みが出てきて、トイレを出たり入ったりするような状態になった。しかし、土曜日だったため病院が空いていなかった。

【レメディの選択】

Apis(エイピス) 30c

Staphysagria (スタフィサグリア)30c

【選択の根拠】

・Apis(エイピス)～予防MMの講義より、Apisは「各部分の腫れ、赤くぷっくり、ズキズキ、尿がでない」と習っていたため。Apisは、ミツバチのエッセンスが閉じ込められている。「膀胱炎で排尿時の最後に刺すようなズキズキする痛みが起こり、排尿のために力を振りしぼらなければならない場合に効果がある」¹⁾とレベッカは記述している。持っていた基本キッドに入っており、すぐに処方可能だったため処方。

・Staphysagria (スタフィサグリア)～今回、膀胱炎になったAさんは、今回が一度目の膀胱炎ではない。FHセルフケアの講義で、スタフィサグリアを精神の問題としてみた際に「うちに秘めた悔しさを伴う腹立ち。手に掴んでいるものを投げつける。憤慨。」と習った。繰り返しているという点も踏まえて精神的なケアの必要性も考えて処方している。

【経過】

処方後、2,3日で痛みや不快感といった症状は完全になくなっている。

【考察】

応急のレメディであるApisが短期間の治癒に導いたと考察する。このケースでは、Apisとstaphysagriaのみの処方だったが、基本レメディの講義で習った、Canth(カンサリス/キーノート;ヒリヒリ)の処方も適切だったと考えられる。

また膀胱炎に1年間の内に3回目ということで、根本的なインチャの癒しの必要性が感じられる事案であると捉えている。今後も精神的な部分のケアについて学びを深めて、根本的な解決に取り組むには…?と思いをめぐらされたケースだった。